

中露間における「戦略的安定性」

2014年4月19日

小泉 悠(未来工学研究所)

はじめに

- ・本報告の問題意識

 - 中露間の「戦略的安定性」とは何か？

 - (単に核抑止の問題と捉えてよいのか？)

- ・アプローチ

 - 狭義の「戦略的安定性」と広義の「戦略的抑止力」の両面から中露関係について考える

1. 「戦略的安定性」と「戦略的抑止力」

(1) ロシア政府文書における「戦略的安定性(стратегическая стабильность)」

- ・主として核均衡に関する文脈で用いられる。

 - ① 危機時の安定性(第一撃の誘因低下)

 - ② 平時における核戦力整備の安定性(軍備管理)

 - ⇒ただし、何が不安定要因かについては米ソで見解の相違

 - (重ICBM、移動式ICBM、MD・・・等)

- ・広義には、「他国の侵略を許さないための政治的、経済的、軍事的手段」

 - ⇒より広義の国力や軍事力のバランス全体

(2) 「戦略的抑止力」(стратегическое сдерживание)

- 露保守派戦略家マハムート・ガレーエフ將軍の唱える概念

 - (ガレーエフ、2008)

 - 「複雑な多極世界においてロシアの利益を守り、広義の脅威・侵略を低減・防止するため

 - の、政治、外交、情報、経済、軍事その他の手段の複合体」

 - ⇒プーチン大統領の国防政策論文(プーチン、2012)にも登場

2. ロシアと「戦略的安定性」

(1) ロシアは相互確証破壊(MAD)を受け入れているのか？

- ・ 冷戦期のソ連については不透明ながら、元戦略ロケット軍高官・核戦略家のドヴォルキンは「受け入れていた」と主張(ドヴォルキン、2011)
- ・ ソ連崩壊後
⇒MAD の維持を志向しつつも、核依存傾向が強まる
(MAD の維持か、核使用ドクトリンへの移行かは不透明)

(2) 「戦略的安定性」に対するロシアの不安

- ・ 核戦力の減少(ソ連時代に生産された旧式核兵器の退役)
- ・ 通常戦力(特に長距離精密誘導兵器)での劣勢
⇒戦術核への依存強めるもグルジア戦争で疑問
- ・ 米国のミサイル防衛システム配備
⇒東欧への配備に加えて、北極海への MD 配備の懸念

(3) 「戦略的安定性」維持の試み

- ・ MAD の維持
(START 型の米露核軍縮条約、新型戦略核の配備による数的均衡維持、ロシア版 MD の推進)
- ・ 戦術核による「地域的核抑止(региональное ядерное сдерживание)」への依存の強まり
(グルジア戦争で疑問も)
- ・ 航空宇宙防衛システムの整備

3. より広義の「戦略的抑止力」

(1)「形を変えた侵略」への懸念

（脅威が公然たる軍事的形態をとらない可能性）

- ・ 「住民の抗議ポテンシャル」の活用
「カラー革命」や「アラブの春」型シナリオ
（ウクライナ政変でも同様の認識）
- ・ イスラム過激派の活用
イスラム過激派が国際テロネットワークや大国の支援を受ける可能性
（例:「破れざる兄弟愛 2013」演習における想定）
- ・ 政治・経済的「浸透」

(2)ロシアの取組

⇒「総合国防政策」の重視

- ・ 近代的な軍事力
- ・ 対テロ・武装反乱型の国防（省庁間の連携含む）
- ・ 「情報安全保障」への視線
- ・ SNS、NGO 規制

4. 中露関係における「戦略的安定」と「戦略的抑止」

2.及び 3.で見た「戦略的安定性」と「戦略的抑止」の問題はどこまで中露間に当てはまるか？

(1)「戦略的安定」の側面

- ・ そもそも中露間には MAD は成立しておらず、ロシアが圧倒的優位
- ・ 中国は領域防衛を志向する大規模 MD も構築していない

⇒ただし、ロシアは中国の核戦力に懸念

- ・ 減少するロシアの核と質・量にわたる中国の核戦力増強
- ・ 中国の INF への懸念（米国は脅かさないがロシアには届く）
（ただし、対中抑止に INF が必要かどうかには疑問も。2013, アルバートフ）
- ・ 中国の確保有量が本当に言われている通りなのかという疑問
（2012, フラムチャーヒン）
- ・ 通常戦力の近代化（長距離精密誘導兵器含む）

⇒米の提案する戦略核大幅削減は受け入れられない

（新 START 交渉過程、米の大幅核削減提案[2013]）

- ・ 戦術核削減にも消極的
- ・ ロシアにおける INF 脱退論
（2007, バルエフスキー参謀総長ら。NATO と「第三国」への抑止の必要性）
（もともとは対東欧 MD だったが、対中の側面も）

(2) 中国に対する「戦略的抑止」: 巨大な隣国への不安

米欧に対する「戦略的脅威」認識は中国にも当てはまるか？

⇒部分的に当てはまっている

- ・ パートナーとしての中国の重要性
（政治・経済・安全保障面・・・3.(1)における「住民の抗議ポテンシャル」やイスラム過激派に対する脅威認識は共有）
- ・ 「戦略的脅威」の源泉としての中国（3.(1)における「浸透」）
衰退の止まらない極東・シベリアへの中国の「浸透」
中央アジアにおける中国の影響力拡大
北極圏への中国の進出
ウクライナへの「核の傘」の提供？
- ・ ただし、脅威として明確には位置づけられていない(曖昧性戦略)

おわりに: 今後の論点

(1) 中露「戦略的安定性」の今後

- ・ 中国の核戦力・宇宙戦力・長距離精密打撃能力・MD
- ・ ロシアの核戦力整備
- ・ 米露関係 (MD、INF、ウクライナ問題など)
などが主要なファクターになると考えられる

(2) 中国への「戦略的抑止」

- ・ 中国は潜在的な「戦略的抑止」の対象であり、かつロールモデルでもある(ガレーエフ、2008)
 - ・ 軍事的対立の再燃という「悪夢」(トレーニン、2012)
 - ・ 中国自身もロシアから「戦略的脅威」と認識されるメリットが薄い
- ⇒互いの位置づけを曖昧にしておくことが最大の安全保障となる？

【参考文献】

（日本語）

ドミトリー・トレーニン著、河東哲夫・湯浅剛・小泉悠訳『ロシア新戦略』（作品社、2012年）

（露語）

アルバートフ A. 「念には念を」『独立軍事展望』2013年8月2日（Арбатов А. Семь раз отмерить. *НЕЗАВИСИМОЕ ВОЕННОЕ ОБОЗРЕНИЕ*. 2013.8.2）

ブレズクン S. 「抑止のポテンシャル」『軍需産業クーリエ』2005年4月20日（Брезкун С. Потенциал сдерживания. *Военно-промышленный курьер*. 2005.4.20）

ガレーエフ M.A. 「『戦略的抑止』: ロシアの新たな軍事的安全保障の概念」『レグナム』2008年10月8日（M.A. Гареева, "Стратегическое сдерживание" - новая концепция военной безопасности России. *REGNUM*. 2008.10.8）

ドヴォルキン V. 「抑止と戦略的安定」『核のリセット』（カーネギー財団モスクワセンター、2011年）（Владимир Дворкин, Сдерживание и стратегическая стабильность. *Ядерная перезагрузка*. Московский центр Карнеги, 2011.）

プーチン V.V. 「強くあれ: ロシアのたしかな安全保障」『ロシア新聞』2012年2月20日（Владимир Путин, Быть сильными: гарантии национальной безопасности для России. *Российская газета*. 2012.2.20）

（以上）